

1. 人員体制

(1) 2018年度より和田薬局長が診療支援部部長代行となった。診療放射線技師6名で業務を遂行し、主な業務は一般撮影、CT、MRI、骨密度測定、造影透視、乳腺撮影で、救急外来に対しても24時間の対応をおこなった。

2. 2018年度の活動

(1) 放射線機器について

老朽化に伴い3月にマンモグラフィ装置の更新をおこなった。骨密度測定装置と同室のため診療への影響を最小限に抑えるように事務部門と連携し実施した。また高額医療機器としては、はじめて済生会熊本病院と同時期に機器を更新し、選定等で情報の共有をおこなった。今後も老朽化による故障に伴う診療への影響を最小限に防ぐため、機器の状況把握と情報共有を徹底する。また、計画的な更新を関係部署と情報を共有し効率的におこなっていく。

(2) 技術連携について

済生会熊本病院中央放射線部と意見や情報の交換をおこない、支部として連携強化に努めてきた。特に診療に関する技術の面では研修等を通して、習得することができ検査の質の向上につなげることができた。次年度も必要に応じた研修などを継続していく。バス検診においても連携を図ることができ、スムーズに実施できた。

(3) 業務範囲の拡大

①技師1名が腹部超音波検査を習得し、週に1日程度業務に携わっている。今後も技術の維持向上に努めていくとともに、関連部署と円滑に業務が遂行できるように協力していく。

②患者さんのリスク及び不安の軽減と看護部への協力として入院患者様の侵襲的検査（MRI検査を含む）に対して事前説明を導入した。

③青照館のバス検診を実施した。2018年度はみすみ病院の技師のみでおこなった。

(4) 職場環境について

ストレスの少ない働きやすい部署を目指し、活発なコミュニケーションを心がけ、ワークライフバランスの充実を図った。突発的な休暇に関しても各員でフォローできるような体制、また教育を実施し連携して業務を遂行した。また有給休暇の取得や当直業務についても適宜検討をし、現況に適合したシステム作りをおこなった。

3. 今後の課題と展望

(1) 画像レポートの作成率の向上に対する支援

画像レポートの作成率が問題となっており、放射線検査室としても診療部への協力としてサポート体制を検討していく。また画像読影に関しても診療部の意見や要望を聞きながら今後の環境を整えていきたい。

(2) 放射線検査に関する院内向け教育の実施

検査におけるリスク管理や画像に関するの情報に関して、継続して院内へ発信していく。また、多職種での画像勉強会の企画・運営をおこなっていききたい。

